

### 3 実践例 —2年—

#### (1) 単元名 紹介します ぼくの王さま わたしの王さま

#### (2) 本単元における知識創造

##### 王様シリーズの紹介を通して シリーズ作品を読む楽しさを実感し さらに多読しようとする

本学級の子どもは、本が好きな子が大変多い。しかし、その読書傾向を見てみると、自分の興味のあるものだけに偏りがちである。また、本を読む楽しみをその子なりに感じている子もいれば、勉強のため、頭がよくなるためととらえている子もいる。また、少数ではあるが、本を読むことに抵抗を感じている子もいる。

寺村輝夫の代表作である「王さまシリーズ」は、50話を超える。主人公の王様は、いばりんぼうでわがままで、時にはうそつき、忘れん坊、おまけに食いしん坊・・・と並べ立てたらきりがないほどさまざまの顔を持つ人物である。本単元では、王様シリーズを読むことで、主人公および登場人物のキャラクターのおもしろさ・各編ごとの人間関係や事件展開の違いというシリーズの魅力を知り、読む楽しみを味わうことが出来ると考える。と同時に、主人公を中心とする人物相互の関係や各人物の特徴的な性格が行動および会話に象徴されていることをつかむ「人物を読む」力を獲得する。さらに、シリーズの中から一番お気に入りの王さまを紹介するブックトークをする。その時に、自分と違った王様のとらえ方を知ることで、読んでいないお話を読みたいという想いを持つ。そのことが多読につながっていく。

#### (3) 「かかわり」を活性化するために

##### ① 本単元における「かかわり」の活性化

- ・自分のとらえた王様を友だちに分かりやすく紹介するために、話し方や提示の仕方や聞き方を工夫しようとする状態。
- ・お気に入りの王様を交流し合うことで、王様に対する自分のイメージを広げたり、自分の考えが揺さぶられ、他のお話を読もうとする状態。

##### ② 本単元における「かかわり」を活性化する手立て

###### (ア) 王様の性格の多様性に気づかせる手段と時間を確保する

絵本「あいうえおうさま」を用いて、王様の性格を表す語彙をマーキングし、多くの性格語彙があることに気づかせる。そして、お気に入りの王様の性格を自分なりの言葉で仲間と交流し合うことで、自分の気づけなかった王様の性格があることに気づかせる。そうすることで、もっといろいろな性格の王様を探したいという意欲づけとする。

###### (イ) 相手によく伝わる紹介文のフォーマットを示す

「木の上にベッド」を用いて、王様紹介のモデル学習をする。まず、本文中の地の文や会話文から王様の性格を表すキーワードをマーキングして、把握する。そして、自分なりの王様のイメージをワークシートにまとめさせる。次に、長さの違う3つのあらすじモデルを比べ読みし、事件の初めと終わりを明確にするにストーリー展開と人物の性格が明確になるための言葉や特徴的な会話を入れることなどのあらすじを書くためのポイントをつかむ。それを生かしながらあらすじをまとめる。さらに、王様の性格に対する自分なりのコメントをつけ、紹介文を仕上げる。

###### (ウ) 話し方スキルや聞き方スキルの向上を図る

王様紹介をする際、話し手は、聞き手によく分かるように速さや間の取り方に気をつけたり、聞き返したりするだけでなく、ペープサートや挿絵を使ったり、本を持って話したりという提示の仕方も工夫させたい。聞き手も、反応しながら聞く、うなずく、問い返す、質問するなどして話し手が伝えたいことを確実に受け止めさせたい。このような双方向の紹介活動を通じて、さまざまな王様像にふれ、他のお話も読んでみたいという気持ちが生まれ、多読を促す。

#### (4) 単元計画 (総時数 15 時限)

主な活動と内容	「かかわり」を活性化する手だてと意図		
<p>1 既習をふりかえり 学習課題を設定する</p> <p>&lt;同じ主人公が出ているお話を読んだことがありますか&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シリーズって言うんだよ。 いろいろなシリーズがあるんだね。</li> </ul> <p>&lt;「あいうえおうさま」を読んでみよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・王さまはわがままだ。 でも まだまだ違う王様がいるかもね。</li> </ul> <p>&lt;&lt;王様シリーズを読んで お気に入りの王様を紹介しよう&gt;&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画を立てよう。</li> <li>・王さまシリーズを読んでいこう。</li> </ul>	<p><b>想起・表出</b></p> <p>まず、ワークシートで今まで読んだシリーズ作品の作者や登場人物をまとめる。それを話し合うことで、シリーズについて知らせ、自分のシリーズ読書傾向を自覚させる。次に、絵本「あいうえおうさま」を読み性格を表す言葉をマーキングすることで、性格を表す語彙を明確にする。それを出し合う中で、主人公である王様の性格の多様性に気づかせ、学習課題を設定する。王様シリーズの並行読書を始める。紹介文を書くための、ブックリストを用意し、紹介したいお話をチェックさせるようにする。</p>		
<p>2 シリーズ作品の読み方と紹介の仕方をつかむ</p> <p>&lt;「木の上にベット」の王さまを紹介しよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介するときはどんなお話かが分かるといひね。</li> </ul> <p>&lt;あらすじをかいてみよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事件の始まりと終わりをはっきりさせよう。</li> <li>・人物の性格が分かるように書いてみよう。あらすじがあるといひね。</li> <li>・王様について思ったことも書いていひね。</li> </ul> <p>&lt;紹介文を書いてペアの友だちに聞いてもらおう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介文が書けたぞ。 聞いてもらおう。</li> </ul> <p>&lt;どうしたらよく分かる紹介になるかな&gt;</p> <table border="1" data-bbox="161 958 772 1160"> <tr> <td data-bbox="161 958 475 1160"> <p>話し手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりとした声で話す。</li> <li>・聞き返しながら話す。</li> <li>・「質問はありませんか」と聞く。</li> <li>・ペープサートを使う</li> </ul> </td> <td data-bbox="475 958 772 1160"> <p>聞き手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎮きながら聞く。</li> <li>・分からないところは質問する。</li> <li>・いいところを言う。</li> </ul> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介のシナリオを書いてよくわかる紹介にしよう。</li> <li>・同じお話なのに、わたしと〇〇さんの王さまは違うよ。</li> <li>・もっといろんな王さまを紹介してみたいな。</li> </ul>	<p>話し手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりとした声で話す。</li> <li>・聞き返しながら話す。</li> <li>・「質問はありませんか」と聞く。</li> <li>・ペープサートを使う</li> </ul>	<p>聞き手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎮きながら聞く。</li> <li>・分からないところは質問する。</li> <li>・いいところを言う。</li> </ul>	<p><b>共有</b></p> <p>王さまの性格の特徴をはっきりととらえるために、性格を表す表現を地の文や会話文の中からも見つけさせ、マーキングさせる。その上で、表にまとめたワークシートに記入することで明確にとらえることが出来るようにする。</p> <p>長さの違う三つのあらすじを比べ読みさせることで、あらすじを書くポイントをつかませる。そのために、同じような表現と違う表現を色分けしたり、矢印で結んだりする言語操作を行わせる。</p> <p>紹介するためには、紹介文の内容だけでなく説明の仕方が大切である。そこで、隣同士で聴き合う活動を行い、相互評価し合う。うまくいかないペアには、分かりやすく説明しているペアの紹介を聞かせモデル学習させ、よく分かる説明の仕方に気づかせたい。その後、よく分かる紹介のポイントを話し手と聞き手の両面から明確にする。そして、ポイントを意識しながら、紹介のシナリオ作りに取り組みさせる。シナリオでは、すべてを書くのではなく、ポイントを明確にして要点だけを書き、説明するようにさせる。</p>
<p>話し手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はっきりとした声で話す。</li> <li>・聞き返しながら話す。</li> <li>・「質問はありませんか」と聞く。</li> <li>・ペープサートを使う</li> </ul>	<p>聞き手</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鎮きながら聞く。</li> <li>・分からないところは質問する。</li> <li>・いいところを言う。</li> </ul>		
<p>3 自分の選んだお話の紹介文をまとめ 紹介シナリオを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは、「王さまめいたんてい」にしよう。初めにあらすじを話そう。そして、聞く人にどんな王様だと思うか質問しよう。</li> </ul>	<p><b>表出</b></p> <p>自分の選んだお話で紹介文を書く際には、モデル学習でつかんだ紹介のポイントを生かしつつ、その子のオリジナリティが出るよう、ワークシートを工夫する。</p>		
<p>4 王さまミニブックトークをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくの王様はどんな王様か当ててください。ある日、本を読もうとした王様は、めがねがないので大騒ぎして部屋中をさがします。さあ、この王様は・・・</li> </ul> <p>&lt;読みたくなった王さまはどんな王だった&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、「何でもほしがりや」の王さまを読みたいです。</li> <li>・いろいろな王さまがいたよ。 みんなそれぞれ読んでみたい王さまのお話が見つかったよ。</li> </ul>	<p><b>表出</b></p> <p>ミニブックトークでは、出来るだけたくさん王さまと出会わせたい。そこで、ガイド役とゲスト役に分け、役割を交代してすすめさせる。</p> <p><b>共有・表出</b></p> <p>ブックトークの後、一番読んでみたいと思った王さまを決め、理由を明らかにして付箋に書く。それを交流し合う中で、お互いの感じ方の違いを理解する</p>		
<p>5 王さまシリーズの他のお話を多読する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今度は、この王様を読んでみようかな。</li> <li>・お気に入りの王さま紹介ポスターを作ろう。</li> <li>・ポスターと本を持って、1組さんや3組さん3年生へ紹介しに行こう。</li> </ul>	<p><b>表出</b></p> <p>他のクラスや他学年に分かってもらえるように王さまの性格語彙を活用することが出来るようにする。</p>		

### (5) 本単元における授業の実際と考察

本単元におけるめざす知識の充実を促すために、「かかわり」を活性化する3つの手だてが、有効に働いたかどうかについて詳述する。

① 王様の性格の多様性に気づかせる手段と時間を確保する

資料1 シリーズふりかえりワーク

子どもは、友だちのお気に入りの本の紹介に興味津々であった。本の紹介が進む中で、『ゾロリ』が好きな人が何人もあるね『ゾロリ』を書いた人は、はらゆたかさん「登場人物も同じだよ」「こまったさん』もそうだね「お話は違うけれど、書いた人も登場人物も同じだ」という声が上がった。そこで、そんなお話を「シリーズ」ということを確認した。そして、シリーズという観点で自分の読書生活をふりかえらせた。(資料1) その結果、作品名や作者名、主人公名は知ってはいるが、実際に、読んだことがあるのは、「ぐりとぐらシリーズ」のみである子が多かった。主人公については、どんな主人公かを語れる子は少なく、「主人公を読む」というシリーズの読書活動のおもしろさを経験したことがないことが分かった。子どもからは、「ぼくの知らない主人公がいたよ」「いろいろな主人公がいるんだね」「シリーズもいっぱいあるんだね。」「読みたいシリーズがあるよ」という声上がり、シリーズについて自分の読書体験を自覚し、シリーズを讀んでいこうとする意欲を持った子もいた。このワークは、子どもの読書生活をふりかえらせ、シリーズに対する意欲を喚起するために有効であったと考える。

本単元のめざす知識創造である「王様シリーズ」の紹介を通して、シリーズを読む楽しさを実感し、さらに多読しようとする」の充実を図るためには、まず、子どもが、自分たちの読書生活をふりかえり、必要感を持って学習に取り組まなければならない。そこで、本単元を組むにあたり、読書に関する意識調査を行った。それによると、本学級の子どもは、本が好きの子が大変多い。読書傾向としては、物語を好む子が多かった。お気に入りの本として、シリーズの中の1冊をあげている子がいたが、全体としては、シリーズを意識して讀んだ経験はないようであった。そこで、自分のお気に入りの本の紹介からはじめることにした。子ども

資料2 性格語彙ワーク

シリーズの読み方や読むことの楽しさを体験させるためには、まず、主人公のキャラクターのおもしろさをつかませることが必要である。そこで、主人公である王さまのいろいろなキャラクターが出ている絵本「あいうえおうさま」を読み、王様の性格の多様性に気づかせることにした。この絵本は、言葉遊びになっているので、どの子どもも楽しんでリズムに合わせて楽しんで音読した。「いろいろな王さまがいるよ。」「王さまたくさんいるよ。」との声が上がった。語彙を見つけさせるためにワークシートを用いた(資料2)。「どんな王様分かる言葉をマーキングしよう。」と呼びかけ、性格語彙をマーキングした。マーキングすることで、性格を表す言葉がたくさんあることに気づくことができた。そして、「王さまは、一人だけれどいろいろな性格をもっているみたい。」という王さまの性格の多様性に気づく意見が出た。これは、マーキングすることで、一人一人が主体的に王さまの性格を表す言葉を探ることができたためであると考える。

T1: どんな王様がいましたか  
 C1: 「わ」のところで分かります。わがままな王さまです。  
 C2: 「お」のところで分かります。おかしな王さまです。  
 (中略)  
 C3: 「た」の王さまは、だましています。だから、いじわる王さまです。  
 T2: C3さんの見つけた王さま、みんなと違うの分かるかな。

その後、見つけた王さまを話し合った。子どもからは、「わがまま」「わからずや」などさまざまな王さまの性格が出された。「まだまだありそう」「どんな王様があるか知りたい」という声も上がった。さらに、それを交流していく中で、左記の授業記録のC3の発言が出てきた。C3は、書いてある王さまの行動を読んで、行動に対する性格語彙を当てはめたのである。それまでの意見は、すべて性格語彙を出すだけであった。そこで、その違いを考えさせるという教師の手だてにより、性格を表す言葉以外に、王様の行動でも性格が分かることがはっきりした。そして、もう一度ワークを使い、性格が分かる行動にマーキングした。今まで気づけなかった王さまの性格に気づきだした子どもの中に、C11やC12の発言からも分かるように「もっと見つけたい」という気持ちが高まった。C3の考えを広めることで、かかわりが活性化し、読みたいという気持ちが高まった。

そこで、用意してあった王さまシリーズを紹介した。王さまシリーズは、全部で、10巻までであるが、短いお話がたくさんあり、抵抗なく読めると思われるはじめの8巻を提示した。ほとんどの子が、「早く読んでみたい」「読みたい」とやる気満々であったが、

8冊という本の数に抵抗を感じている子もいた。しかし、「一人が全部読むことは大変だけど、紹介し合ったらいろんな王さまが分かるよ」「みんなの見つけた王さまを聞いてみたいね」という声があがった。そこで、単元のめあて「王さまシリーズを読んで、お気に入りの王さまを紹介しよう」を設定した。そして、学習をどのように進めるかを確認し、①王さまシリーズを読み始める②紹介の仕方の勉強をする③紹介する④紹介する本を決める⑤ミニブックトークをする⑥王さま紹介ポスターを作るという学習計画を立てた。さっそく、並行読書が始まった。ブックリスト「お気に入りの王さまをみつけよう」を持たせ、見つけた王さまを記入させていった。どの子も題名や目次を手がかりに自分の読みたい本を選んで読み進め、お気に入りの王さまを見つけていった。

王さまシリーズブックリスト  
お気に入りの王さまをみつけよう!!

あなたの好きなお気に入りの王さまはどこにいるかな?  
◎とてもお気に入り、みんなにおしめたい ○お気に入り  
11月1日 12月1日 1月1日 2月1日 3月1日 4月1日 5月1日 6月1日

お題のたいめい	どんな王さま	お気に入り	ど
① ぼろのたまごのたまごやき	くねんぼうのまじ	○	◎
② 水はんだまのくびがさり	あひろが次持のまじ	◎	◎
③ ワシとホントの宝石ぼこ	うろつくまじ	◎	◎
④ サークスにはいたった王さま	ぶがが太鼓のまじ	○	◎

どいびかん・王さませんせい! (あつ! どれいさんにとく!)

① おしやべりなたまごやき	くねん王さま	○	◎
② 木の上にベッド	ねぞのわらわ王さま	◎	◎
③ タンクのモゲン	ないてあはれる王さま	○	◎
④ 金のたまごがみつかる	いしばる王さま	◎	◎
⑤ なんでもほじりいしがりや	へんまがまい王さま	◎	◎
⑥ パクパクとパクパク	へんまごをいう王さま	○	◎
⑦ ニセモノぼんざい	ひくろ王さま	○	◎

資料4 ブックリスト

① いしこいしこいしこ	いしこいしこ王さま	○	◎
② 一つがこりちゅコレット	つごち王さま	○	◎
③ 王さま動物園	ふれしな王さま	○	◎

## ② 相手によく分かる紹介文のフォーマットを示す

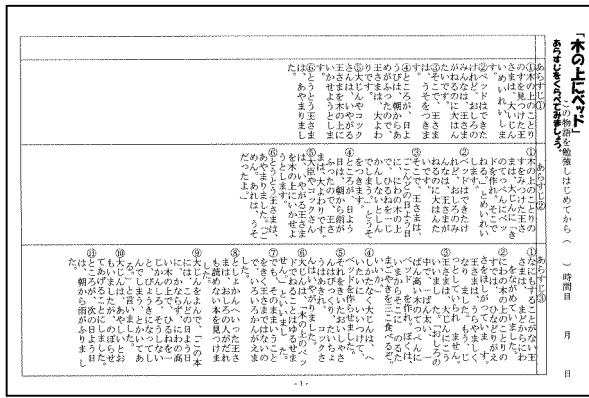
学習計画を受けて、まず、何を紹介するかを話し合った。紹介文を書いた経験のある子どもが三分の二と多かったため、主人公を中心にすることを確認した上で、既習を生かして、紹介文の内容を決めた。紹介文は、題名、王さまの性格、あらすじ、王さまに対するコメントの4つとすることにした。しかし、新しい学習であるため、子どもの不安感が大きかった。

そこで、「木の上にベッド」を用いて、モデル学習をし、紹介文の書き方をつかむことにした。「あいうえお うさま」の学習で性格は、それをそのまま示している性格語彙と王さまの行動からわかることを学習できた。そこでまず、本文中の地の文や会話文から王さまの性

格が表れているキーワードをマーキングさせた。どの

### 資料5 王さま性格ワーク

子ども抵抗なく取り組むことが出来た。そのあと、王さまの性格の特徴を把握した(資料5)。このワークは、王さまの特徴を性格語彙と行動に分けて記入するように作ってあるため、性格と行動が繋がっていることに気づくことが出来た。



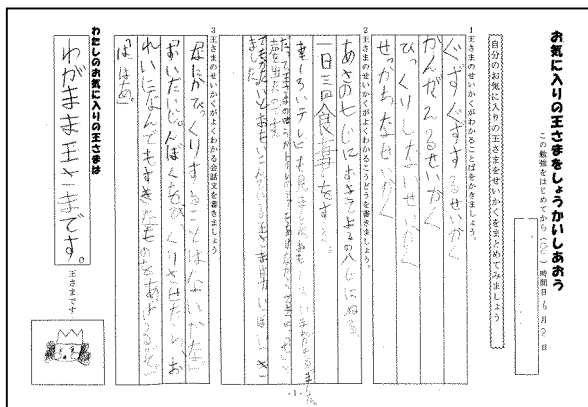
資料6 あらすじワーク

「一番短いのだと簡単すぎてよくわからない」「会話文があった方が王さまの性格が分かるみたいだ」「出てくる人が違う」「どのあらすじも、事件の始まりが書いてある」「最後どうなるか書いてないあらすじもある」と、活発に意見を出すことが出来た。そして、あらすじを書くポイントをまとめた。それは、「王さまの性格が分かるように書く」「性格が分かる会話文を入れた方が聞き手にとって分かりやすい」「お話の始めとなかと終わりをはっきりする」「文の終わりは、『です』『ます』にする」の4つである。



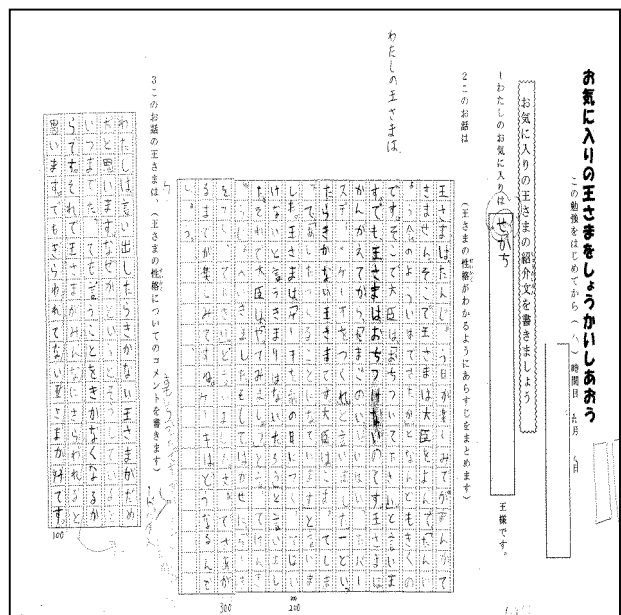
資料7 木の上にベッド紹介ワーク

比べ読みは初めての経験であり、抵抗を示す子どもいたが、少しずつ言語操作を通して考えたり、分かったことを交流し合うことで、あらすじの書き方をつかむことが出来たことは、今後の学習の中で生きて働く力になるものと考えます。その後、紹介文のフォーマットとして、ワークを示した(資料7)。ワークを用いて、「木の上にベッド」の紹介文を書いた。子どもは、つかんだポイントに注意して紹介文を仕上げていた。始めは、大変そうであったが、どの子どもノートに下書きしたり、読み返したりして、紹介文を書き上げることができた。



資料8 お気に入りの王さま紹介ワーク1

みんなでモデル学習をして書き方を学んだあとは、一人一人が紹介したい王さまを決めて紹介文を書いた。ワークを使って、お気に入りの王さまの性格をまとめた(資料8)。次に、紹介文を書いた(資料9)。



資料9 お気に入りの王さま紹介ワーク2

そして、紹介するための作戦を考えた。ワークシート

を使っての学習は、何をすべきが明確となり、全員が紹介文を書くために有効な手だてであったと考える。

以上のように、紹介文をしっかり書くことで、子ども一人一人が自分の伝えたいことをはっきりと認識することができ、紹介するための下支えができた。どの子ども、自分の紹介を聞いてほしい、友だちの紹介を聞きたいという気持ちが高まった。

### ③ 話し方、聞き方スキルの向上を図る



写真1 ミニブックトークの様子

ガイド役の子は、自分の紹介するお話の看板を出したり、本を見やすく置いたりしていたため、ゲスト役の子は、自分の聞きたい友だちの所へ行って熱心に聞いていた(写真1)。

A: 今から「こいのぼりの空」の発表をはじめます。

(あらすじを説明する)

B: (メモをとりながら黙って聞いている)

A: そんな王さまがおもしろいと思います。ぼくのお気に入りのおうさまは、どんな王さまか分かりましたか。

B: 分かりました。

A: 読みたくなりましたか。

B: 読みたくなりました。

今回は、ミニブックトークを設定して、紹介を行った。ブックトークは本来一つのテーマのもと、複数の本のおもしろさを紹介する。話し手が、聞き手に本の説明を一方向的に行うもの意味合いが強い。しかし、本単元の学習では、一冊の本について、双方向の話し合いとらえた。読書は、本来、個人的なものとする。本学級の子どもの実態を考えると、1対多の紹介では、他の聞き手に左右されて自分の思いを持ちにくい子が多くなると考えた。そのため、一対一の対話形式で行うことにした。全体をガイド役とゲスト役の二つに分け、交代して進めた。

ミニブックトークは、3時間行った。始めは、事例1のように、ガイド役の子がいっしょうけんめい自分の原稿を読み、説明し、ゲスト役がそれを聞いているというパターンが多かった(資料10)。その原因は、紹介原稿を完璧に仕上げすぎてしまったことである。読書紹介は子どもにとって初めての経験であるため、教師は、どの子ども出来ることを考え、十分な時間をとり、原稿を書かせた。そのため、子どもの意識がそれを読むこと終始してしまったためと考えられる。

#### 資料10 ミニブックトークの実際 事例1

1回目のブックトークのあとの話し合いでは、全員が読みたくなった王さまを見つけることが出来た(資料11)。始め子どもは、どんな王さまを読みたいかを述べるだけであったが、C4が読みたくなった理由をしっかりと述べた。そこで、C4の話し方のよさを考えさせた。だが、理由は言いにくそうであった。しかし、C6から書いて考えたいという意見が出た。これにより、次の活動がはっきりした。そして、読みたくなったわけを付箋に書く時間をとった。子どもから、「もっと紹介を聞きたい」「紹介したい」との声が上がり、もう1時間ブックトークをすることになった。C4の発言を広めることで、他の子どもがそのよさに気づき新しい方向が示されたと考える。しかし、C8の発言を生かすことはできなかった。C8は、自分の紹介したい王さまと自分が紹介された王さまを比べながら聞いていたことが分かる。これは、聞き方としてはレベルが高い。これも、教師がしっかりとその良さを広め、聞き方のモデルと位置づけられる場面であった。

T1: 読んでみたくなった王様、見つかりましたか。

(挙手多数)

T2: どんな王様、見つかりましたか。

C1: 「誕生日のプレゼント」のお話のせっかち王様です。

C2: ぼくは、〇〇さんの「ぞうのたまごのたまごやき」のしつこい王様が読みたくなりました。

C3: ぼくは、〇〇さんのなまける王様が読みたくなりました。

C4: ぼくは、〇〇さんの「王さまびっくり」の王様が読んでみたくなりました。なぜ読みたくなった

かという、自分でさせてとっておいて怖がっているから変でおもしろいからです。

T3 : C4さんは、何をお話ししたかな。

C5 : 読みたくなったわけも話しました。

T4 : お気に入りの王さまを話すだけでなく、わけも言えるといいね。

(だが、わけが言いにくそう)

T5 : 王さま見つけたけれど、お話しできないのですね。

C6 : いいこと考えた。言えないけれど、書けると思う。

T6 : では、付箋に書いてみてね。

(子どもは付箋にお気に入りの王さまとそのわけを書き始める。)

C7 : もっと紹介したい。

C8 : 読みたい王さまは見つかったけれど、私の王さまがみんなの王様とちょっと違うかもしれない。

私は、「おうさましょうぼうたい」を読んだんですけど、他の王さまと違うかもしれない。

### 資料11 読みたくなった王様の話し合い

A : わたしの好きな王さまを当ててください。

(あらすじを説明する)

どんな手紙だと思いますか。

B : 悪口みたいな手紙ですか。

A : ちょっと違います。(続きを話す)

A : なぜ王さまは、笑ったのでしょうか。

B : はい、たぶん・・・

分かりません。

A : わたしの好きな王さまは分かりますか。

B : 子どもみたいな王さまですか。

A : あきらめない王さまです。読みたくなりましたか。

B : 読みたくなりました。

2時間目のブックトークでは、事例2のようなやりとりも見られた(資料12)。これを双方向的コミュニケーションのモデルとして、他の子どもに示した。子どもは、「ぼくらと違う」「キャッチボールになっている」とやりとりのよさに気づいた。

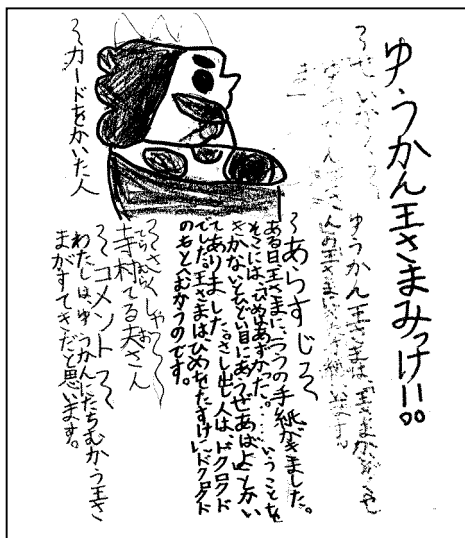
「もう1時間やりたい」「もう少し紹介の練習をしたい」「今度は〇〇さんの紹介を聞きたい」との声が上がり、もう1時間ミニブックトークを行うことにした。3時間目は、2時間目よりさらに意欲的であった。友達のよい話し方のモデルを見たことで、自分の紹介の仕方をふり返り、よりよい紹介をしたいという気持ちが生じた。そのことが、より意欲的に多読したい気持ちにつながっていったと考える。

### 資料12 ミニブックトークの実際事例2

## (6) 成果と課題

本単元における知識創造「王さまシリーズの紹介を通して シリーズ作品を読む楽しさを実感し さらに多読しようとする」についていえば、子どもは、おおむね達成できたのではないかと考える。それは、次の4つの子どもの姿から言える。一点目は、紹介ポスターをかく際に、子どもの方から「先生 まず 王さまの性格をずばり書けよ」「あとはあらすじ コメントも忘れないように」「読みたくなるように書かなくては」という声が上がった。そして、ほとんどの子が絵も含めて 30分程度で仕上げてしまった。これには正直驚いた。子どもが、紹介文の書き方をメタ認知できていた。二点目は、紹介ポスターの内容である。王さまの性格をうまく捕らえ、読む人にアピールした見出しになっている(資料13)。三点目は、読んだ本の数である。半分の子が8冊を読み、2

年生にはやや抵抗があるであろうと考えた残りの2冊にも挑戦した。四点目は、子どものふりかえりである(資料14)。A児は、最初アンケートでは、本があまり好きではないと答えていた。しかし、この学習を通して、本を読む楽しさを少し感じたようである。他の子どもも、この学習を通して、むずかしかったけれど挑戦してよかった、力がついた、というふりかえりがほとんどであった。B児やC児は学校の読書タイムだけでなく、家庭でも読書を続けたり、自分から進んで家族に紹介している。このことは、今までとは違った本のおもしろさを実感したことを示していると考えられる。さらに、D児、E



児、F 児は、読書の方法を自分なりに認識している。このことは、これからの読書生活の中で力として生きていくと思う。そして、新しい読み方で、さまざまな本を読もうとするであろう。この学習は、子どもにとっては、新しいことの連続であった。しかし、一つ一つのステップを確実に学習することで、これからの読書生活で生きて働く力のいくつかがついた。

しかし、大きな課題も残った。それは、応答的コミュニケーションが不足していることである。双方向の伝え合いが十分に出来ているとは言えない。ある子どもは、自分の紹介を一方向的に話し、聞き手は黙ってそれを聞く。ここには、伝え合いはない。また、ある子どもは、聞き手に質問し、聞かれた子どもも答え、一見双方向の伝え合いに見える。しかし、本当に「わかってもらいたい 伝えたい」「聞きたい 分かってほしい」という気持ちになっていた子は、まだまだ少ないので

はない **資料 13 紹介ポスター**

すかが中心となり「聞く」よりも音声がホネり向かかかった。4 月か  
**資料 14 学習のふりかえり**  
ら、聞く方に傾いてお話ししてはいたが、まだまだ十分にはなかった。その後、話し手は聞き手を巻き込む話し方が出来るようにしなければならない。聞き手は、話し手の話を受容的に受け止め、時には評価しながら聞くことも出来なくてはならない。そうすることで、形式的ではない応答的コミュニケーションの力を身につけることが出来る。今後は、それを進めていきたい。

- A 児：王さまは、わがままや意味不明のことがたくさんあったけれど、そこがかわいくておもしろいです。王さまの本を読んでいると、本が大好きになった気がしました。特に、「王さまたんけんたい」がおもしろかったなあ。
- B 児：わたしは、家でも王さまシリーズを読んで、お気に入りの王さまがいっぱいになりました。長いお話でも大丈夫。
- C 児：王さまの紹介が上手に出来ました。おうちでも、お母さんに紹介をして、喜んでもらいました。
- D 児：主人公の性格と行動がつながっていることがわかりました。性格と行動をみわけられもう一度やりたいです。
- E 児：違うお話でも、紹介ポスターがすらすらかけました。
- F 児：始めは、あらすじやコメントを書くのが大変でした。でも、うまくできるようになりました。また、違うお話でやってみたいな。



本時の知識創造 ・自分の選んだ王様の紹介文をもとにブックトークをすることで、それぞれがとらえた王さまの特徴を伝え合い、多様な王さま像に気づき、多読しようとする

(1) 展開

主な活動と内容	時間	「かかわり」を活性化する手だてと意図
<p>1 本時のねらいを確認し ブックトークをする  <u>新しい王様を見つけよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わたしの王様は どんな王さまかよく聞いて当ててくださいね  ある日 本を読もうとした王様は めがねがないので 部屋中探して大騒ぎをしました その後 めがねを探すのを忘れてお散歩に行ってしまう 部屋に帰ると部屋の中は散らばっています 王様は「大変だ どろぼうがはいった」とさげびました  さあ この王様は・・・</li> <li>・ 大騒ぎ王様ですか</li> <li>・ ちょっと違います どうして大騒ぎするのだと思いますか</li> <li>・ 何でもすぐ忘れるからです</li> <li>・ そうですね</li> <li>・ わかった わすれんぼ王様ですか</li> <li>・ そうです 本当に忘れんぼなんですよ まだまだいろいろ忘れてしまっているのです。そのたんに忘れたことも忘れていのです 本当にわすれんぼで あきれてしまいます わたしは 王様みたいになりたくないです どうですか 読みたくなりましたか</li> <li>・ ぼくもそうだよ おもしろそうだな 読んでみたいな</li> </ul>	20	<p><u>想起・表出</u></p> <p>自分が聞きたい友だちの所へ行きやすいようするため、お話を紹介するガイド役と紹介されるゲスト役の二グループに分け、交代して進める。また、あらかじめガイド役に、自分の紹介するお話が何かを示す看板を出したり、本を見やすく置いたりさせる。また、どうしても紹介に時間差が出るため、ゲストがいない場合は、自分の紹介の仕方をふりかえらせる時間とし、自分の伝え方をフィードバックさせる。</p> <p>一般的にブックトークは、話し手が聞き手に本について説明するだけの一方的なものが多い。しかし、ここでのブックトークは、一冊の本についての双方向の話し合いととらえている。相手の意見や意図を受け止める話し方、聞き方が出来るようにさせたい。また、紹介された王様の性格をメモすることで、紹介者の王様と自分が聞いて分かった王様の違いに気づかせ、読みたいという意欲を持たせる。</p>
<p>2 一番読みたくなった王さまのお話を付箋に書く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぼくは 「わすれんたわすれんぼ」が読みたいよ いったい何を忘れたのかもっと詳しく知りたいよ</li> <li>・ わたしは「ひみつのフライパン」が読みたいよ ○○さんの紹介の仕方がわかりやすかったからだよ</li> </ul>	3	<p><u>結合</u></p> <p>読みたくなった王さまを理由を明らかにして書くことで、今日のブックトークをふりかえらせる。</p>
<p>3 読みたくなった王を紹介し合う  &lt;読みたくなった王様はみつかったかな&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぼくは 「何でもほしがりや」を読みたくなりました だって 一体 何をほしがるとかくわしく読みたいからです</li> <li>・ わたしは 「わすれたわすれんぼ」を読みたいです 王さ</li> </ul>	20	<p><u>共有・結合</u></p> <p>読みたくなった王様を理由を明らかにして、お互いの感じ方の違いを理解する。さらに、お話リストを用意して読み</p>

<p>まは 忘れたとき誰にしかられるのか知りたいです</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• ぼくと〇〇さんは同じお話なのに 王さまが反対だ 読む人によって考えることは違うんだね</li></ul> <p>4 ふりかえりをする</p> <div data-bbox="188 320 874 450" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>いろいろな王様がいたよ みんなそれぞれ読んでみたいお話が見つかったよ これからもっといろいろな王様のお話をよんでみたくなったよ</p></div>	<p>2</p>	<p>たいお話に付箋を貼ることにより、さまざまな王さま像が浮き彫りになる。それが、「もっと違うお話をよんでみたい」という読書意欲の喚起となる。</p>
--	----------	---